



東京医科歯科大学 統合報告書 2022

TOKYO MEDICAL AND DENTAL UNIVERSITY
Integrated Report 2022



国立大学法人
東京医科歯科大学
TOKYO MEDICAL AND DENTAL UNIVERSITY

国立大学法人 東京医科歯科大学広報部・IR 室
113-8510 東京都文京区湯島 1-5-45
電話：03-3813-6111 (代表)
URL：https://www.tmd.ac.jp/



社会との協調へ

医療系に特化した唯一の指定国立大学として
「世界屈指のトータル・ヘルスケア・サイエンス拠点の形成」
を推進

東京医科歯科大学（TMDU）学長
田中 雄二郎

TMDUのミッション

2028年の創立100周年に向けた「第4期中期目標」

2028年、東京医科歯科大学は創立100周年を迎えます。
そこで創立100周年時に「あるべきTMDUの姿」に向かって、
6年間で達成すべき重点目標を第4期のミッションとして
中期目標の中に書き込みました。
TMDUは教育研究の質向上、社会との共創、医学・歯学を通じた
社会貢献を実現するために邁進します。

Contents

INTEGRATED REPORT

統合報告書 2022

- 02 学長メッセージ
- 03 TMDUのミッション
- 04 新型コロナウイルス感染症との闘い
- 06 産学連携
- 08 ダイバーシティ&インクルージョン
推進宣言
- 10 SDGs推進宣言
- 12 教育活動
- 14 研究活動
- 16 東京医科歯科大学病院
- 18 国際発展
- 20 沿革
- 22 データが示すTMDU
- 24 学長トークダイジェスト
- 26 財務諸表の概要と分析～貸借対照表
- 28 財務諸表の概要と分析～損益計算書
- 31 財務諸表の概要と分析
～業務実施コスト計算書
- 32 財務諸表の概要と分析
～キャッシュ・フロー計算書
- 34 財務諸表の概要と分析
～本学の財務構造（2020年度）
- 35 写真で「知る」東京医科歯科大学

私は2020年4月、コロナ禍の始まりと共に東京医科歯科大学（以下TMDU）学長を拝命しました。その時に掲げたテーマは「力を合わせて未来を拓く」でした。そして思いもかけないパンデミックの出現で「ピンチをチャンスに」、「力を合わせて患者さんと仲間たちをコロナから守る」という標語を掲げ、パンデミックに正面から取り組むことを呼びかけました。職員や学生が賛同して献身的な努力を重ねてくれた結果、多くの患者さんが救われ、社会からも多くの支援と高い評価をいただきました。

2021年に掲げたテーマは「学内の協調」で、その一例として2021年10月1日には医学部附属病院と歯学部附属病院が一体化し「東京医科歯科大学病院」となりました。足元から基礎を固めたことが大きな力となり2022年4月には念願の「指定国立大学法人」となり、国内で10校しかない世界最高水準の教育研究活動の展開が期待される国立大学になりました。

そして2022年は「社会との協調」をテーマに掲げました。コロナ対応に積極的に取り組んだ経験から、私たちは「社会貢献の重要性」を知りました。社会貢献に寄与するためには、人々と対話し、解決すべき課題やニーズを探り、社会に協力を求めながら課題解決に取り組む必要があります。決してTMDUだけの力では人々の健康と幸福に貢献できないのです。

2022年、TMDUは初めて「統合報告書」を作成しました。この一冊を通じて、一人でも多くの方にTMDUの「今」を知っていただき、「協調の輪」を広げて、「世界屈指のトータル・ヘルスケア・サイエンス拠点」を形成していきたいと考えております。

TMDUの最終目標は、優れた教育・研究の成果を上げるだけでなく、その成果を社会に還元することだと考えています。大学病院における診療はその直接的な表現ですが、それに留まらず産官学連携による人材開発や研究の社会実装は欠かせない社会貢献と考えています。それが大学の理念である「知と癒しの匠を創造し、人々の幸福に貢献する」ことにつながると確信し、最終目標に向かって歩み続けます。

第4期中期目標（重点目標）

東京医科歯科大学は、「知と癒しの匠を創造し、人々の幸福に貢献する」という基本理念の下に、教育・研究・医療の充実と機能強化を図ってきた。2028年に創立100周年を控える第4期中期目標期間においては、本学は指定国立大学法人として臨床医学を基盤とする世界に冠たる医療系総合大学への飛躍を目指し、以下の重点目標を掲げる。

- 1) SDGs及びSociety 5.0に象徴される現代社会の潮流を意識しつつ、医療系総合大学の特色と強みを活かして得られた教育・研究・臨床の成果を広く社会に還元することを第一の目標とする。
- 2) 先導的な医療を担うサイエンティフィック・クリニシャン（科学的な視点で診療を実践する医療人）を育成する教育体系及び環境を整備するとともに、医学研究を先導し牽引するクリニシャン・サイエンティスト（臨床的な視点をもった研究者）の育成に挑戦する。
- 3) 「トランスレーショナル・リサーチ」に焦点を当て、学内の研究と臨床の連携を促進させる。次世代医療に繋がる先進的かつ特色のある基礎・臨床研究を行い、世界屈指の「トータル・ヘルスケア」研究の拠点確立を目指す。
- 4) 新型コロナウイルス感染症への対応経験を活かし、パンデミック等の非常時の迅速かつ柔軟な医療、及び先端的な研究を基盤とした平時の最高水準の診療の両立を可能とする強靱な医療体制を構築する。
- 5) 四大学連合をはじめとした大学間連携及び産業界を含む官民連携を活かし、首都圏における医学教育・研究・臨床のネットワークを拡充する。そこに集約される叡智の成果を広く国内外に提供・発信するべく「トータル・ヘルスケア」拠点の機能を強化する。
- 6) 構成員が互いに「多様性と包摂性」を重視し、各自が多様な能力を高めつつ「自律と協調」を発揮することにより、構成員の総力を挙げて未来社会の創造に貢献する大学運営を行う。



2022年4月1日から指定国立大学法人となったことを知らせるポスター



2021年6月「SDGs推進宣言」を发出



2022年3月の卒業証書授与式

力を合わせて患者さんと仲間たちをコロナから守る

新型コロナウイルス感染症との闘い

TMDUは2020年2月のダイヤモンドプリンセス号への医療スタッフ派遣を皮切りに、2020年4月2日に第1号の陽性患者を受け入れ、2022年7月5日までに1,000人の陽性患者を受け入れました。TMDUでは目の前のパンデミックから尊い命を救うだけでなく、ポストコロナ社会に備えた研究成果が150件以上も発表されています。これまでの取り組みについてご紹介します。

コロナ外来診療センター

当院のCOVID-19 関連の診療を一手に担うセンターとして設立。COVID-19 感染による肺炎等が疑われる患者さんや、陽性と診断されて当院に紹介入院となる患者さん等の診療を中心に行っています。地域の医療機関との連携によるCOVID-19の診療と、高次医療機関としての大学病院の機能の両立を目指します。



ECMO 支援チーム

COVID-19による呼吸不全に対してECMO（体外式膜型人工肺）を用いた全身管理と治療を、24時間休まず安全に行うために、医師・看護師・臨床工学技士等でチームが結成されました。感染対策で面会できないご家族に対しても、タブレットを用いて入院中の映像を送り、治療方針について丁寧に伝えました。



検査部

検査部では一般患者の検査と並行してCOVID-19関連のPCR検査を2020年4月から2022年7月18日時点で77,547件行ってきました。また新たな変異ウイルスの出現に対応して、最も有効な検査法を選別・採用することで、国際都市・東京の感染状況を的確に把握し、その結果を社会に発信しています。



アセスメントチーム

COVID-19対応の中で発生する様々な問題に対して迅速に対応策を立案して、病院スタッフに広く共有するCOVID-19対応に関する「戦略立案チーム」。「責めるより応援しよう」という精神を重視してスタッフ間での意思疎通と情報の共有と、それに伴う新しいルールの導入がスムーズに進むように取り組んでいます。



新型コロナウイルス対策室

従来から当院にある災害テロ対策室に、2020年4月から「新型コロナウイルス対策室」を設置し、『顔の見える災害対策』をモットーに、院内外の関係機関のスタッフと積極的に交流することで情報共有を進めています。COVID-19関連の全ての情報がここに集約するようにシステム化しています。



メンタルヘルスケア

精神科が中心となり緩和ケア科、看護部、健康管理センターと共同して活動しており、COVID-19患者とその家族、COVID-19に對する東京医科歯科大学の医療者・職員、及びCOVID-19の流行で不安を感じている一般の方の心の問題をケアすることを課題としています。2022年7月時点で面談等の回数は3,200回を超えています。



放射線部

放射線部では、COVID-19患者のレントゲン、CT、MRI等の撮影を2022年7月18日までに24,500件行ってきました。病院敷地内にコンテナCT室を設置して感染対策に十分配慮した検査を最新鋭の検査機器を用いて行うことで多数のCOVID-19患者の治療に貢献することができております。



事務部

COVID-19対応を円滑に進めるために「線の下の方たち」となって様々な要望に応えることで、病院・大学内の風通しを良くしています。病棟の移動に伴う引っ越しの手伝い、掲示物の制作、ワクチン接種の準備、患者・職員向けの休憩スペースの設置、コロナ対策会議の運営、東京都との調整等多面的に活躍しています。



バックヤードチーム



パンデミックの際に一般診療や手術ができなくなった時、COVID-19対応の医師やスタッフをサポートするチームとして主に外科系の医師が中心となって清掃作業や患者さんの送迎等を担当しました。

ER (救命救急) センター

重症のCOVID-19陽性患者、疑いの救急患者等の治療を担当しながら、2次救急・3次救急患者の初期診療から緊急手術、入院後の集中治療も担当します。ドクターカーによる救急現場での高度な救命医療の提供や、救急ヘリコプターの受け入れ、災害医療に備えた訓練等も行っています。



呼吸器内科

COVID-19 中等症患者を担当し、呼吸管理と肺の状態に細心の注意を払います。新規のコロナ治療薬の導入もスムーズに行っています。一般診療では間質性肺炎、アレルギー疾患（過敏性肺炎・気管支喘息）、感染症（肺炎）、悪性腫瘍（肺癌）、慢性閉塞性肺疾患等の疾患に対応します。



リハビリテーション部

COVID-19患者を対象としたリハビリテーション治療を4,700回以上行っています。(2022年7月18日時点)。患者さんの症状や年齢、体調等を考慮しながら、一人ひとりに必要なプログラムを提供しています。



コロナ対策会議とメルマガ



感染状況によっては、毎朝8時に開催され、200人近くがオンラインで参加し、感染状況に応じて回数を増やし、現在は週1回開催です。メールマガジンは2022年7月11日に550号を発行し、現在も継続中です。

材料部

COVID-19対応に必要な感染防護具（PPE）や各種の衣料品の在庫管理と品質管理を行っています。パンデミック中にN95マスク等が不足しないように調達しつつ、現場の声を活かしてオリジナルのガウンを制作する等、新たな企画にも取り組んでいます。



ICU (集中治療部)

人工呼吸器やECMO等が必要な重症コロナ患者の対応を24時間体制で担当しています。並行して一般患者の術後管理も行います。病状の変化に応じて超音波検査等の検査機器を用いたり、人工呼吸器、血液浄化装置、ECMO等を導入して、最適な医療を提供します。



看護部

コロナ禍であっても安全良質な安全良質な高度・先進医療を提供し、社会に開かれた病院を支えるために、創造性豊かな思いやりのある看護を提供しています。重症病棟、中等症病棟、疑い病棟、コロナ外来診療センター等を含む全部署でCOVID-19対応を支えています。



MEセンター

COVID-19対応に欠かせない、人工呼吸器、NO吸入療法器、血液浄化装置、ECMO等の医療機器の管理・調整を行っています。医師とともに患者さんのベッドサイドに立ち、症状に合わせて医療機器をコントロールします。



感染制御部

医師、歯科医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、事務職員の多職種から構成され、安全・良質な高度医療の基盤を維持するために、COVID-19をはじめとする新興・再興感染症対策等を行っています。



医学・歯学の研究成果を 社会に還元するための 産学連携

産学連携について

東京医科歯科大学は、本学発「革新的医療イノベーション」の創出に向けて、本学と民間企業との本格的な産学連携を増強するための組織として、オープンイノベーション機構（OI機構）を設立しました。本学が目指す産学連携は、単に新たな製品を作り出すための共同研究にとどまらず、新たな社会的価値を創造し、新規研究分野の創成までを産学一体となって作り出すことに取り組むことが重要と考えています。そのためのシステムとしては、「大学・企業という壁を壊し基礎研究から一緒に取り組み」「ある程度進んだところで実用化に向けた協働プロジェクトを立ち上げ」「その実用化によって得た利益を関係者で享受し」、さらに、「その一部を次の新たな基礎研究に回す」という好循環が必要と考えています。本学の英知を結集し新たな価値創造、より良い未来を実現するべく努力してまいります。

あいおいニッセイ同和損保と包括連携協定

TMDUはあいおいニッセイ同和損害保険株式会社と包括連携協定を締結し、疾病とヒューマンエラーの相関性の分析・研究を通して「VUCA時代（社会やビジネスにおいて将来の予測が困難になっている状態）に立ち向かう医学的リスクマネジメント」を実践し、「真に安心・安全な社会」の実現を目指します。



ジーシークリニカルラボ

TMDUと歯科医療業界で国内No.1のシェアを誇る株式会社ジーシーは、2022年6月に包括連携協定を締結し、国際的ネットワークを活かした人材交流による研究者の育成や、国際的な価値のある研究を促進します。これらにより新たな製品の創出と事業拡大へ繋げ、世界の人々のQOL（Quality Of Life）の向上を支え、「生きる力を支える医療」として一層の役割を果たすことを目指します。



NECカラダケア

TMDUは株式会社日本電気（NEC）と、2021年6月からヘルスケアサービス「NECカラダケア」の実証事業を開始。本事業を通じて、民間のヘルスケアサービスと医療機関の新たな情報連携モデルを構築するとともに、得られた知見は、両方で推進している共同研究テーマの一つである、「整形リハビリテーションに関する医療従事者の暗黙知を共有可能にする技術の開発」にも活用します。



リコーとの共同研究で脊髄機能の可視化を実現

TMDU、リコー、金沢工業大学の3者が共同研究で開発を進めて来た脊髄計についての研究開発課題「脊髄計による神経機能情報を活用した新たな診断技術の確立」が、日本医療研究開発機構（AMED）が実施する令和3年度「医療研究開発革新基盤創成事業（CICLE）：第6回公募」に採択されました。



「TMDU Innovation Park」の設立：三菱地所と共同運営

TIP（TMDU Innovation Park）は、東京医科歯科大学と三菱地所とが共同運営し、より良い医療・より人々の健康が増進される社会の実現に向け、アカデミアや多様な業種業界の企業・スタートアップ、行政によるコラボレーションの誘発を目指すものです。



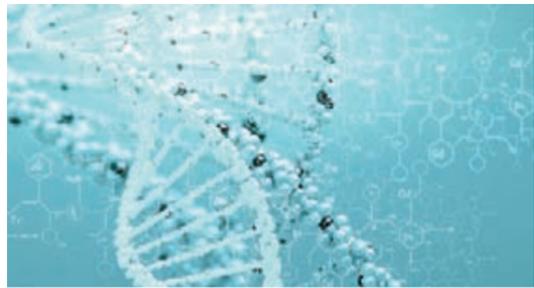
TMDU-JEOLクライオEM-gateway

TMDUは日本電子株式会社等との連携協定に基づき、クライオ電顕法による創薬・医療分野の研究開発の拠点となる「TMDU-JEOLクライオEM-gateway」を設立し、2019年7月から運用を開始。クライオ電顕法に関心がある企業等に対し、情報提供、技術研修、専門的コンサルティングを行う、会員制のプログラムを運営しています。



核酸医薬分野における産学官の連携とバイオベンチャーの設立

「ヘテロ核酸」という新しい核酸医薬品の創製を目的とした本学発のバイオベンチャー企業「レナセラピューティクス」を2015年に設立しました。東京医科歯科大学の横田隆徳教授らにより開発されたヘテロ核酸は、新しい核酸医薬品の創製に貢献することが期待されており、一日でも早く患者さんに治療薬を届けることを目指します。



知財功労賞 経済産業大臣表彰（オープンイノベーション推進企業）を受賞

2022年4月、TMDUは「知財功労賞 経済産業大臣表彰（オープンイノベーション推進企業）」を受賞しました。「知財功労賞」は、日本の知的財産権制度の発展・普及・啓発に貢献した個人及び知的財産権制度を積極的に活用した企業等に贈呈されます。本学は経済産業大臣表彰を受賞しました。



日本オープンイノベーション大賞「科学技術政策担当大臣賞」受賞

東京医科歯科大学統合研究機構武部貴則教授、株式会社EVAセラピューティクス、丸石製薬株式会社、ムネ製薬株式会社らのグループが、第4回日本オープンイノベーション大賞『科学技術政策担当大臣賞』を受賞したことが、2022年1月28日に発表されました。武部教授らのグループは肺に非依存的な画期的な呼吸メカニズム「腸換気技術（Enteral Ventilation：EVA法）」を世界に先駆けて確立し、東京医科歯科大学発ベンチャーである株式会社EVAセラピューティクスを中心とする製薬企業や院陽専門会社等とともに開発・製造・販売体制を構築しています。



産学連携のメニュー

共同研究	企業様・他大学・公的機関等の研究者と本学研究者及び教職員等が、共通の課題について共同して行う研究であり、外部機関から研究者及び研究経費等を受け入れる形態等で行われます。
受託研究	本学において、企業様等から委託を受けて、本学の教員が業務として実施する研究で、その成果を委託者へ報告する制度です。研究に要する経費は、委託者に負担していただくことになります。
秘密保持契約	未公開の研究情報・成果等を外部機関へ開示、または相手方から秘密情報を受ける際に交わす契約です。例として、共同研究の実施を検討するにあたり互いの情報を交換する際に、秘密保持契約書を締結します。
奨学寄付金	企業様や個人投資家の方から寄附金を募り、学術研究や教育の充実・発展に活用する制度です。奨学寄附金とは、大学において、学術研究に要する経費等、教育研究の奨励を目的とする経費に充てるべきものとして、学外機関等（企業・個人の皆様）から受け入れる寄附金です。その経費は、学術研究や教育の充実・発展に活用しており、大学の研究活動等に極めて重要な役割を果たしています。
学術指導	「学術指導」とは、企業様その他の団体からの委託を受け、本学の職員がその教育、研究及び技術上の専門的知識に基づき指導及び助言を行い、委託者の業務又は活動を支援するもので、当該支援に要する経費を委託者に負担していただき本学の教員が本務の一環として、指導（学術指導）を行うものです。
オープンラボ制度	本学では、共同研究をはじめ、学際的・流動的な研究活動に対応するスペースとして、オープンラボを整備しています。本学と共同研究等を実施する企業様には、オープンラボの貸与が可能となっています。オープンラボを拠点に、企業様と本学との交流が進み、共同研究等が加速することを目的としています。
マテリアルトランスファー	マテリアルトランスファーは、研究・教育・臨床の結果として又はその過程において得られた学術的・財産的価値がある材料・試料（実験動物・細胞株・ウイルス株・核酸・タンパク質等）、試作品、モデル品、装置等を、本学と企業様等との間で授受することをいいます。マテリアルトランスファーの際には、『MTA (Material Transfer Agreement)』が締結されます。
オープンイノベーション制度	企業様等が本学の知的資産・医療現場のリソースを最大限に利用し、本格的な産学連携プロジェクトを推進するための制度です。企業様にご活用いただく本学の知的資産の例としては、研究力・臨床力・教育力・医療ネットワーク力等で、東京医科歯科大学と企業様が多角的・本格的に共創する制度です。
ジョイントリサーチ講座制度	企業様等と本学が、実用化を視野に入れた共同研究テーマについて、本学内に研究組織を形成した上で、研究に取り組む制度です。運営経費は、企業様等から受け入れ、講座という形で研究組織が置かれることにより、従来の共同研究とは異なり安定した研究環境が実現し、イノベーション創出が加速することを目的としています。

活き活きと持続的に働ける 組織へ

ダイバーシティ&インクルージョン推進宣言

東京医科歯科大学は、基本理念である「知と癒しの匠を創造し、人々の幸福に貢献する」の下、性別・年齢・国籍・障がいの有無・セクシャルオリエンテーション等、多様な背景を持った職員一人ひとりの個性と能力が評価され、それぞれの役割を自覚し、教育・研究・医療及び地域・社会貢献を通じて自らの使命を実現していく組織づくりを目指し、ダイバーシティとインクルージョンへの取り組みを推進します。

基本方針

ダイバーシティの意識改革と醸成

本学教職員にダイバーシティの正しい理解と多様性を尊重する意識を醸成する。

国際的視点を踏まえた男女共同参画社会に寄与する教育・研究活動の推進

本学の使命として、教育・研究活動を通じて男女共同参画社会に寄与する人材を育成し送り出す。

仕事と生活の相乗効果 (ワーク・ライフ・シナジー)

安心して育児・介護・治療ができ、男女ともに協力してライフイベントとキャリア形成を両立できるワークスマートな環境を充実する。

大学運営における意思決定への 男女共同参画の促進

大学運営において積極的に女性人材の活用を進め、役員への登用を促進するとともに、高度な教養と専門性を備えた女性リーダーを育成し、男女共同参画社会の実現を牽引する。

次世代育成の推進

若手研究者や学生が目指し憧れる女性リーダーのロールモデル（医科歯科モデル）をつくり、後継者として育成するシステムを構築し、社会へ還元する。

アクションプラン

- 女性人材の積極的活用とリーダーの育成
- 女性教員の少ない分野への女性の参画推進及び研究環境の整備
- 女子学生数、女性上位職数の拡充加速化
- ダイバーシティ環境実現に向けた職員・学生の意識改革
- 男女共同参画社会に寄与する教育・研究活動の推進
- 教育・研究・診療と家庭生活（育児・介護）との両立の支援
- 医科歯科モデルの開発とシステム構築
- 一般事業主行動計画の実施

令和3年度東京都女性活躍推進大賞 (教育分野)を受賞

「東京都女性活躍推進大賞」は、全ての女性が意欲と能力に応じて、多様な生き方が選択できる社会の実現に向けて、女性の活躍推進に取

東京都女性活躍推進大賞



り組む企業や団体及び個人に贈呈されます。本学の女性上位職登用制度・ファミリーサポート等が評価され、受賞しました。

「キャリアアップ教員」女性上位職登用制度

教育・研究・診療の領域で特筆すべき業績があり、将来の活躍が期待される女性教員を「キャリアアップ教員（講師・准教授）」として2021年度から登用しています。登用されるとリーダーシップ強化等の支援のほか、研究支援者の配備を行います。登用期間中(3事業年度)の業績に基づいて正式な昇任を検討します。



保育支援事業

男女がともにキャリアを続けて行く上で、育児は大きな課題の一つです。本学では、派遣型病児保育事業、授乳・搾乳室の運営、学内保育園等を通し、子育てと学業・研究・仕事を両立できる支援体制に取り組んでいます。なお、派遣型病児保育事業では病児・病後児のケアにかかる経費の約半額を大学が負担しています。



多様な働き方(ダイバーシティ)推進事業

本学では、産前産後休暇・育児休業、介護休暇・休業、短時間勤務や短日数勤務等、ライフイベントの種類や多様な価値観に沿った働き方を可能とする勤務制度を制定するとともに、それらの制度や支援を紹介する「ワーク・ライフ・ガイドブック」を定期発行し、普及に努めています。また、ライフイベントやキャリア意識等に関するアンケート調査を行い、活動向上と施策提案につなげています。



ファミリーサポート

子育て中の教職員及び学生が、育児をしながら安心して仕事や就学が続けられるよう、本学独自のファミリーサポートを構築し、運用しています。具体的には、お子さんの保育園への送迎や一時預かり、病児保育やお泊まり保育等の援助活動を必要とする教職員及び学生と、子育てを支援したい地域の方々と、専門のアドバイザーがコーディネートしています。



共同研究支援事業

女性研究者が取り組む共同研究を支援し、PI (Principal Investigator) としての研究推進力の育成、産学連携による研究活動の促進をはかり、自ら研究助成金を獲得する力と、共同研究を潤滑に運営するスキルを養い、研究力強化の基盤を形成しています。



キャリア・ライフ相談室

多様なライフイベント（妊娠、出産、育児、介護、治療、妊活等）と仕事の両立、キャリアの継続と発展、職場環境等といった相談に対応しています。また、必要に応じて、相談者に適切なメンターを紹介しています。



教育・研究・医療、 地域・社会貢献でSDGsを推進

SDGs推進のための取り組み

日本に10校しかない指定国立大学法人となり、その中でも唯一の「医療系」に特化した大学となったTMDUは、「トータル・ヘルスケア」という視点からSDGsに取り組み、その成果を社会に発信していきます。

環境報告書 2021



「環境情報の提供の推進等による特定事業者等の環境に配慮した事業活動の推進に関する法律（環境配慮促進法）」に基づき、「環境報告書 2021」を作成しました。本学では、環境に配慮した活動を進め、持続可能な開発目標（SDGs）を達成し、教育・研究・医療を通して、持続可能な社会の構築に貢献する大学を目指しています。

四大学連合ポストコロナ社会コンソーシアム

コロナ禍をきっかけとしてコロナ対策、あるいはポストコロナ社会に関する研究面における連携を、東京医科歯科大学、東京外国語大学、東京工業大学、一橋大学のそれぞれの研究の得意分野を活かし、かつ融合させて研究成果を出力しています。



銘水「御茶ノ水」を活用する地下水膜ろ過システム

地震等の災害時にも病院機能を十分に発揮できるよう自前で水源を確保する等の目的で設置され休止状態にあった井戸の補修を行い、2011年4月より井戸水の利用を再スタート。災害時には、公的ライフライン復旧までの給水拠点として、地域住民に貢献することができます。



本学の SDGs

東京医科歯科大学は、基本理念である「知と癒しの匠を創造し、人々の幸福に貢献する」のもと、持続的かつ強靱な世界の繁栄と誰一人取り残さない発展というSDGsの理念に深く共感し、教育・研究・医療及び地域・社会貢献を通じて、大学全体でSDGs達成に向けた取り組みを推進します。

東京医科歯科大学は、2030年までの「行動の10年」において、医療系の指定国立大学として、世代を超えて地球・人類の「トータル・ヘルスケア」を実現するため、新型コロナウイルス感染症への対応経験を活かし、社会的な役割やニーズに対応した教育・研究・医療を推進し、その成果を積極的に情報発信するとともに社会・地域に還元していきます。

東京医科歯科大学の組織や個人が復元力を持って、学内の連携を進めつつ、本学の特徴を活かしながら、学外、国内外との多様な連携を通じて、地球規模でソーシャル・インパクトを与える大学へと変革を進めることで、SDGsの実現に貢献します。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



化学物質の適正管理

本学では、化学物質を適正に管理し、環境に配慮した活動を進め、持続可能な開発目標（SDGs）を達成し、サステナブルな教育・研究・診療の環境整備を目指しています。



地球と人の健康を考慮した病院食

食品ロスを極力減らすため病院食も様々な努力を行っています。食材の納品は前日まで調整、さらに配膳時間ギリギリまで調理量を調整し、余った場合は真空パックで冷凍保存、また重湯を作る際の粥は、嚥下食や、ポタージュの
 とうもろこしに使用する等工夫しています。これによって食品ロスを削減することができました。



自然エネルギー大学リーグ加盟等

自然エネルギーの活用等を促進することを通じて、大学活動に伴う環境負荷を抑制し、脱炭素化を目指すことを目的とした「自然エネルギー大学リーグ」へ参加し、本学の教養教育の現場であり国際交流の場と位置付けている国府台団地を中心に環境保全や資源の有効活用、省エネルギー対策を行うことを目指します。



本学の保健管理に関する SDGs

教職員及び学生の心身保持及び増進を図るため、健診データを一元管理し、学生在籍時から教職員採用後まで一貫した健康保健及び精神保健に関する相談及び指導・助言活動を行っています。また、環境衛生や感染症予防の対策・実施も行っています。



Planetary Health Alliance (PHA) に加盟

気候変動に対するアクションを起こす上で様々な情報収集を図るため、ハーバード大学が主催する Planetary Health Alliance (PHA) に加盟。2021年の国際会議において発出された「プラネタ

リーヘルスに関するサンパウロ宣言」の日本語版（長崎大学作成）の共同発出にも参加しています。



教科書の廃棄をなくす、リユース支援事業

学生団体Boxy（ボクシー）は、2020年に東京医科歯科大学の学生によって設立された団体で、毎年大量の教科書が廃棄される現状を「とても勿体ない」と感じ、上級生から不要な教材を回収し、必要としている
 新入生とマッチングするサービスを開始しました。



卓越した知識と技術を身につけた医療人教育



TMDUの教育活動

TMDUに学び、教育・研究・診療に携わるすべての人が、「知と癒しの匠」への道を歩み続けることで人々の痛みや悲しみを受けとめ、思いやれる心と倫理観を持ち、高度な医療の知識と卓越した技術を身につけた医療人になるために全力を尽くしています。



教養部

教養部は、「大学は、市民社会を構成する一員としての教養を身につける場」という大学教育の原点を重視し、医療人に求められる教養と人間力を養うために1年間、緑豊かな国府台キャンパスで全学科の学生が集い、学んでいます。



医学部

医学部は1951年に設立され、現在は医学科（定員100人）と保健衛生学科（看護学専攻55人・検査技術学専攻35人）で構成され、最先端の医学研究と医療の場から、世界の舞台へと飛躍する人材を育成しています。



歯学部

歯学部は1928年に創設され、現在は6年制の歯学科（53人）と4年制の口腔保健学科（口腔保健衛生学専攻22人、口腔保健工学専攻10人）で構成され、わが国を代表する歯学教育研究機関として将来指導的役割を果たす人材を養成しています。



大学院医歯学総合研究科

医学・歯学あるいは生命理工学医療科学分野に精通し、他分野との緊密な連携により世界をリードする研究者、教育戦略を打ち立て実行できる心豊かな教育者、高い倫理観と実践的問題解決能力を有する研究心旺盛な高度専門医療人、そして新しい時代を開拓するオピニオンリーダーといった人材を、修士課程及び博士課程に設置された多彩なコースにおいて養成しています。

教育理念

1. 幅広い教養と豊かな感性を備えた人間性の涵養を目指す

病める人と向き合う医療人は、患者さんの痛みが分かり、そして患者さんを取り巻く様々な状況をも理解しなければならない。それには豊かな教養と人間への深い洞察力、高い倫理観と説明能力を備えなければならない。

2. 自己問題提起、自己問題解決型の創造力豊かな人材を養成する

学業あるいは研究にあたっては、何事も鵜呑みにすることなく、疑問を投げかけ、種々の情報を収集、解析し、自ら解決する能力が求められる。そうしてはじめて、独創的な研究を推進できる人材が育まれる。

2. 国際感覚と国際競争力に優れる人材を養成する

研究成果が即座に世界に伝播する現代において、医療の分野でもその情報と時間の共有化が益々進んでいる。このような状況の中で、立ち遅れない、むしろ最先端に行く人材の養成に努める。そのために海外教育研究拠点、海外国際交流協定校への派遣を積極的に推進する。



大学院保健衛生学研究科

学部との一貫教育研究体制を整え、5年間の継続的な学修による学位（修士号と博士号）の取得を可能とする5年一貫課程を設置することで、保健・医療分野における広い視野と高い倫理観を持つ、国際的・学際的に活躍しうる高度実践者や研究者、教育者を養成しています。

特色ある教育プログラム1



TMDU型グローバルヘルス推進人材育成構想

保健医療分野における経験と実績を持ち、世界を舞台に活躍する「グローバルヘルス推進人材」を育成する取り組みを通じて、世界規模での健康レベルの向上に貢献します。

特色ある教育プログラム3



未来がん医療プロフェッショナル養成プラン

少子・超高齢社会やがん診療における多彩なニーズに対応する人材育成のシステムを構築し、未来志向のがん医療者を養成していきます。

特色ある教育プログラム5



創薬・医療データ科学イノベーション人材育成事業

東京都と本学の協定事業として大学・行政機関・企業等が連携、「アントレプレナー育成プログラム」「デジタルヘルス人材育成プログラム」を開講し、医療や創薬分野のイノベーション人材の育成を目指します。



学生支援・保健管理機構

生活・修学・就職・メンタルヘルス・ハラスメントに関する相談等キャンパスライフ全般にわたる全学的支援、女性の支援策に係る企画立案、学生に対して、健康診断、予防接種等を通じた健康保持増進、その他学生の福利厚生に関する検討を行っています。

特色ある教育プログラム2



病院経営人材養成プラン

本学の立地を活かし、首都圏の大病院と連携し、受講生の獲得とケーススタディの事例収集を行い、実践的で実効性の高い人材養成プログラムを開発し、病院経営戦略能力を備える医療人材の養成に取り組みます。

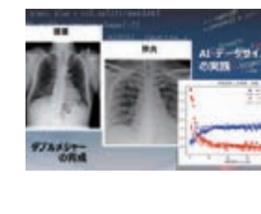
特色ある教育プログラム4



医療・創薬 データサイエンスコンソーシアム

「医療・創薬データサイエンスコンソーシアム」アカデミア、企業等でコンソーシアムを形成、博士課程大学院生と社会人を対象にデータサイエンス人材育成プログラムを開講し、わが国の学術ならびに産業の振興に貢献するデータサイエンス専門人材を育成します。

特色ある教育プログラム6



医学・歯学分野における数理・データサイエンス・AI教育の開発

医学・歯学分野における数理・DS・AI教育のモデルカリキュラム・教材を開発し、本学のカリキュラムに組み込むとともに全国の医学部、歯学部へ普及・展開することを目指しています。

研究リソースの活用で 真の科学技術立国へ

TMDUの研究活動

東京医科歯科大学には多数の研究所や研究センターがあり、新たな社会価値を創造し、持続的に成長する科学技術立国となるために貢献できるリソースを多数有しています。

難治疾患研究所

難治疾患研究所は、1973年に設立された“難治疾患”を標榜する国内唯一の国立大学法人附置研究所です。未来生命科学、病態制御科学、バイオデータ科学の3研究部門21分野を中心に、基礎から応用まで幅広い研究活動を展開しています。2009年には、文部科学大臣により全国共同利用・共同研究拠点「難治疾患共同研究拠点」に認定されました。



生体材料工学研究所

生体材料工学研究所は、医学、歯学、生命科学系の研究者と密接に連携することで、医療系総合大学である東京医科歯科大学における、理工系の教育研究を担っています。医療の分野で有用な「ものづくり」を鍵として、生体材料、生体システム、医薬化学の各分野で先端的な研究と人材育成を行う、世界でもユニークな研究所です。



M&Dデータ科学センター

M&Dデータ科学センターはデータサイエンスの基礎、応用、臨床での展開に向け、それぞれ「M&Dデータ科学基盤系」「M&Dデータ科学実践系」「M&Dデータ科学アウトカム系」の3つの系を置き、ゲノム情報を含む医科や歯科の臨床データや先端研究データを活用し、全国モデルとなるよう人材育成や研究を担います。



若手研究者支援センター (Young Investigator Support Center: YISC)

研究力強化に必要な取り組みを総合的に支援し、研究費獲得やキャリアアップ、助成金申請、国際フェロシップへの申請等、指定国立大学としての研究力強化に必要な取り組みに関する総合的な支援を行うとともに、既存組織の垣根を越えて全ての研究者を強力にバックアップする組織です。



我が国は「科学技術立国」をスローガンに掲げながら、様々な場面でその衰えが指摘されています。

そして、既に数年前から医療におけるイノベーションを巡る大きな課題として、

- ①新技術等の創出の停滞と国際競争力の不足
 - ②超高齢化社会における新たな医療ニーズ
 - ③米国・欧州に周回遅れのイノベーション政策
- 以上のような問題が指摘されています。

このうち①に関しては、医薬品や治療系医療機器の輸入超過によって医療費が海外に流出し続けており、我が国発の新規医療技術の開発や医薬品・医療機器等の迅速な実用化、事業化は喫緊の課題となっています。

国立大学の独立法人化以降、運営費交付金が一貫して減少している状況の中、その解決策として大学には競争的外部資金の獲得に注力するだけでなく、企業と組織レベルの連携を強化し、大学の知識や技術から新たな社会価値を創出して持続的な成長を目指す体制づくりが求められており、本学が潜在的に有する研究リソースやそれを社会実装する研究展開力を駆使して社会に還元したいと考えております。

ぜひ多くの皆様と一緒に、本学の「医歯学系」という特色ある研究リソースを活用して、新たなシーズを創出していきたいと考えております。



医療イノベーション推進センター

本学の質の高い研究を基盤に、その成果を医療現場に迅速に提供し、さらにグローバル展開しています。



リサーチコアセンター

疾患遺伝子解析、先端機器解析及び放射線解析に関する教育、研究を行うとともに、大型研究機器、放射性同位元素等の適切な管理と、専門知識の供与を通じた共同利用を総合的に推進しています。

生命倫理研究センター



研究倫理審査支援を通じて先端研究の活性化に貢献し、生命倫理学教育体系の効率化を図っています。

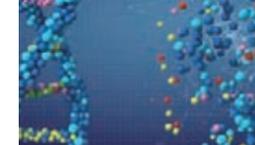
再生医療研究センター

再生医療の発展に寄与するための人材の育成、並びに再生医療の開発研究と実用化研究を促進しています。



核酸・ペプチド創薬治療研究センター

核酸・ペプチドの創薬拠点として、多様な分野の研究者が協働し、基礎研究から臨床現場へ一貫通貫の態勢で患者さんに医薬品を届ける取り組みを推進しています。



実験動物センター

動物実験及び動物の飼育管理、並びに疾患モデル動物の開発とその研究を行っています。



疾患バイオリソースセンター

個別化医療の発展に寄与するための教育及び研究、産学医療イノベーション研究を推進しています。



脳統合機能研究センター

各種の脳・神経系機能の統合的解明とこれに基づく新規治療法開発の推進、脳・神経疾患の克服を目指した共同研究並びに若手研究者の人材育成を行っています。



産学連携研究センター

本学の活動を活性化するため、国内外における産学連携を推進し、知的財産の創出支援、保護、維持、管理活用及び社会還元を推進しています。



医学と歯学の融合、 相乗効果でより高いレベルの 医療を提供



2021年10月1日より
医学部附属病院と歯学部附属病院が
一体化

世界最高水準のトータル・ヘルスケアを 提供するための特色あるセンター等をご紹介します

長寿・健康人生推進センター

このセンターは通常の人間ドックではなく、東京医科歯科大学の研究成果を活用した予防医療、個別化先制医療センターです。具体的には遺伝子から体質を探る本学独自の「健康管理ゲノム情報の提供」や、機密性を重視した歯科診療等を提供いたします。



先端歯科診療センター

当センターでは、それぞれの得意分野を持つ専門医集団がハイレベルの歯科治療を集約して提供しています。さらに先進的な診療機器を配置し、感染対策、個室感あふれる診療ブース、セキュリティに配慮した患者さんの誘導等、アメニティ等の面でも高い満足度を追及しています。



救命救急センター

2007年4月、都内23施設目の救命救急センターとして開設され、24時間365日、高度な医療設備と優秀なスタッフを備えて安定した救急医療を提供しています。厚生労働省による救命救急センターの充実段階評価で、2009年から2015年まで7年連続して最高評価をいただく等の高い実績をあげています。



スポーツ医学診療センター

スポーツ選手の靭帯損傷や肉離れ・捻挫等の「ケガ」や、いわゆる使いすぎのオーバーユースによる腱付着部炎等の運動障害、スポーツに関連する内科的疾患・病気等に対して、本学に特徴的な先進分野と連携することで、より早く低侵襲にスポーツ競技へ復帰できるようにサポートしています。



東京医科歯科大学病院は医学部附属病院と歯学部附属病院が一体化し、2021年10月1日にスタートしました。これまで2つの病院を支えてくださった皆様に深く感謝いたします。

「世界最高水準のトータル・ヘルスケアを提供し、人々の幸福に貢献する」という理念と4つの基本方針は、「安全良質な高度・先進医療を提供しつづける、社会に開かれた病院」という医学部附属病院の理念と、「優れた医療人の育成に努め、患者さん一人ひとりにあった最高水準の歯科医療を提供する」という歯学部附属病院の理念を継承しつつ、さらに高いレベルの「東京医科歯科大学病院」をスタートさせるために定めたものです。

2つの病院が一体化することにより「頭から足先まで」トータルに全身を診ることで、今まで以上に患者さんの健康に貢献できる医療を提供してまいります。一体化によって医学と歯学の融合が進み、互いに相乗効果を発揮して、より高いレベルの医療を提供できると考えております。

2つの病院は2020年からは新型コロナウイルス感染症対策にも積極的に貢献し、困難な局面に対しても職員全員が一致団結し、大きな力を発揮しています。

2023年度には「機能強化棟」が完成予定で、新時代の救急医療と高度先進医療を提供する拠点、そしてお茶の水・湯島に集う人々のオアシスが誕生することにも胸が高鳴ります。

2つの病院を束ねる初代病院長として、これから学ばべきことが多々ありますので、皆様のご指導やご協力を頂けますよう、心よりお願い申し上げます。

(病院一体化紹介パンフレット、内田信一病院長ご挨拶より抜粋)

快眠センター

「快眠」とは単に不眠の反対を意味する言葉ではなく、快適な睡眠を得るための全てのプロセスを含み、睡眠時無呼吸症や様々な睡眠障害等の疾患に対し、呼吸器内科、精神科、耳鼻咽喉科、快眠歯科外来、顎関節症外来、義歯科、歯科総合診療科、歯科技工部等が連携して診療にあたっています。



低侵襲医療センター

当センターは、今後の医療において重要な位置を占める低侵襲医療について、革新的な低侵襲手術の開発や研究、低侵襲手術教育(トレーニングセミナーや医療安全の広報活動)等を行っています。診療科横断的な研究や教育を行えるよう、内視鏡下手術を行っている胃外科、大腸肛門外科、肝胆膵外科、泌尿器科、周産・女性診療科、呼吸器外科等と協力しながら活動しております。



オーラルヘルスセンター

当センターでは、医系と歯系を有する本大学病院の様々な診療科と連携しながら入院中の口の健康維持改善をサポートしてまいります。本学の特性を活かして病院横断的に多くの診療科や看護部等と連携して口腔ケアの推進に取り組んでいます。



難病診療部

本学は従来から「難病」の研究と治療に積極的に取り組み、多数のエキスパートが診療にあたっています。難病診療部では、そのノウハウを活かし、難病を持つ患者さん一人ひとりの心に寄り添い、苦しみや不安を少しでも和らげるように、複数のエキスパートがチームとなって診療をトータルに進めて行きます。



不整脈センター

このセンターは専門医師が高度先進技術を駆使することによって不整脈を治癒させて、不整脈による症状の緩和、生命予後の改善、心不全の改善、生活の質の改善をもたらすことを目的としています。特にカテーテル治療や植込み型デバイス治療等専門性の高い治療に対して、循環器内科を中心に、小児科、心血管外科等が担当しています。



メンタルヘルス・リエゾンセンター

このセンターは、精神科リエゾンチーム、認知症ケアチーム、歯科連携チーム、周産期メンタルケアチーム、移植患者メンタルケアチーム、患者相談チームの6つの医療チームから構成されています。各チームが円滑に活動できるようマネージし、患者さんに適切な医療が提供できるよう支援を行っています。



がん先端治療部

がん先端治療部では、当院での包括的ながん診療の場を提供し、患者さん・ご家族にとって最善のがん診療のプラットフォームとして機能すべく活動を継続します。



先端近視センター

小児の近視進行抑制から中高年の合併症による失明予防まで、近視のありとあらゆる側面を経験豊富な専門家がトータルマネジメントを行う世界最大のセンターです。



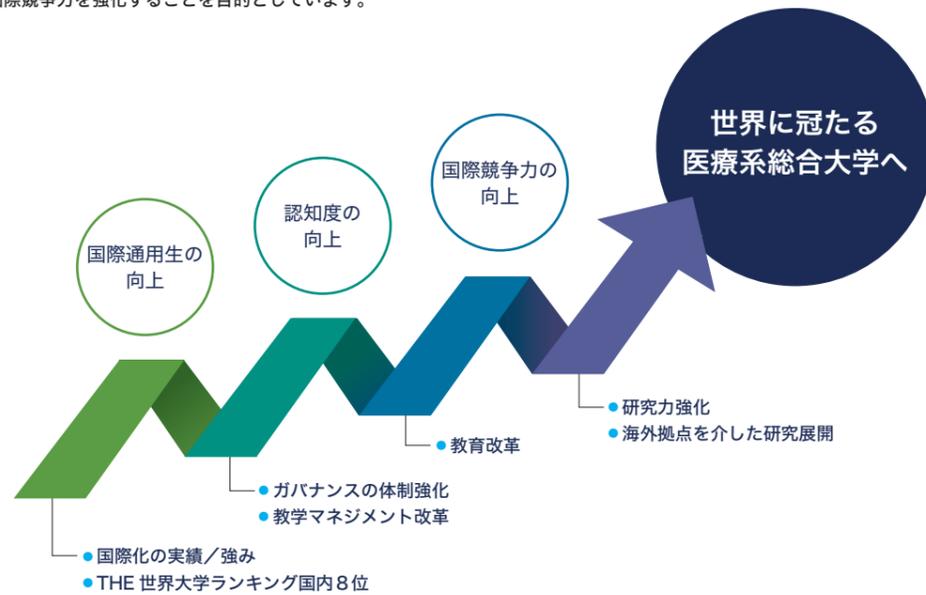
国際性豊かな医療人を育成する

TMDUの国際発展

日本が将来、医学・医療分野で世界を牽引し、世界の健康レベル向上に貢献し、その中心的役割を果たすためには、「世界」という広い視点で行動し、複雑な世界規模の保健医療問題の解決に果敢に挑む人材の育成が必要です。本学では「国際性豊かな医療人の育成」を推進するとともに、国際競争力を強化するため、様々な国際分野での取り組みを展開中です。

スーパーグローバル大学創成支援事業

東京医科歯科大学は、文部科学省による「スーパーグローバル大学創成支援」(タイプA: トップ型、世界大学ランキングトップ100を目指す力のある、世界レベルの教育研究を行うトップ大学)の支援対象機関に採択されました。「スーパーグローバル大学創成支援」は、世界レベルの教育研究を行うトップ大学や、先導的試行に挑戦する大学等、徹底した国際化と大学改革を断行する大学を重点支援することにより、高等教育の国際競争力を強化することを目的としています。



グローバル教育プログラム

グローバル教育は、「国際感覚と国際競争力に優れた人材の養成」を教育理念にうたう本学にとって、その存在意義にも関わる、本学の教育の根幹をなす取り組みです。常に「世界」という広い視点で考え行動し、複雑な



世界規模の保健医療問題の解決に果敢に挑む人材を育成することは私達の使命であり、大学執行部によるリーダーシップとガバナンスのもと、全学的に進めています。

博士課程国際連携専攻 (ジョイント・ディグリー・プログラム: JDP)

ジョイント・ディグリー (JD) とは、連携する大学間で開設された教育プログラムを学生が修了した際に、当該連携する複数の大学が共同で単一の学位を授与するものです。東京医科歯科大学・チュラロンコーン大学国際連携歯学系専攻では「博士 (歯学)」の学位記が両大学の連名で発行され、東京医科歯科大学・チリ大学国際連携医学系専攻と東京医科歯科大学・マヒドン大学国際連携医学系専攻では「博士 (医学)」の学位記が両大学の連名で発行されます。



修士課程医歯理工保健学専攻 グローバルヘルスリーダー養成 (MPH) コース

世界規模での健康レベル向上にむけて、日本が保健医療分野における経験実績を踏まえて貢献し、世界とともに発展的存続を実現するために中心となって活躍する、グローバルヘルス推進人材を育成しています。完全英語履修コースとし、春及び秋入学を実施するとともに、ハーバード大学、ジョンズホプキンス大学、世界保健機関 (WHO) 等から教員を招聘し短期集中講義を行っています。2020年度には、博士コース (グローバルヘルスプロフェッショナル (GHP) コース) も開講しました。



MPHコース授業風景

海外拠点

本学には3つの海外拠点があります。ガーナ (野口記念医学研究所共同研究センター) は、日本と西アフリカの医学交流拠点として一層の発展をめざし、共同研究センターを設置し、新興・再興感染症研究基盤創生事業「海外拠点研究領域」の研究プログラムを進めています。チリ (ラテンアメリカ共同研究拠点) は、大腸がんの早期発見・治療を目指す中南米諸国の国家プロジェクトを支援しています。タイ (チュラロンコーン大学) は、チュラロンコーン大学-東京医科歯科大学研究教育協力センターを開設し、両校の共同研究のサポート、TMDUへ留学を希望する皆様への留学情報提供、タイのTMDU同窓生のサポート、タイにお住まいの日本人の皆様への医療関連情報提供等を行っています。また、2017年11月、マヒドン大学シリラート病院内に、本学のオフィス ("TMDU-MU Partnership Siriraj Office") も開設されました。



タイ歯科研修プログラムに参加したTMDU学生 (タイ)



国立サン・ボルハ病院内で大腸内視鏡指導にあたる本学教員 (チリ)

International Faculty Development Course (IFDC コース)

医療系専門職教育の実績や強みと、2012~2021年に行っていた東南アジアにおける事業の成果を活かし、世界の医療従事者を対象に先端的歯科医療・歯学教育・研究の学習コースを提供しています。世界各国から参加者を受け入れ、世界トップレベルのTMDU型教育の展開を推進することで、日本の歯学教育・臨床・研究を世界に展開するとともに、国際競争力のある人材を育成し、海外とのネットワークを拡充しています。



海外留学プログラムと在学中の留学生

国際性豊かな医療人を育成するために、本学の学生に対する海外留学や海外研修について積極的にサポートし、2019年度は147人の学部学生がインペリアルカレッジロンドン、オックスフォード大学、ハーバード大学、ヨ



テポリ大学等で学びました。また海外の留学生も積極的に受け入れており、2022年5月時点で37か国362人の留学生が在籍しています。

コロナ禍における新しいオンライン国際交流

本学では、新型コロナウイルスパンデミックの影響で国を越えての移動が制限される中でも、特に学生派遣については、オンライン国際交流の企画・調整を積極的に行い、学生の国際的視野獲得や海外ネットワーク構築が継続されるように支援しています。具体的には、海外協定校を中心にオンラインでの独自の新規交流を行っており、様々なテーマでのディスカッションプログラムのほか、共通のテーマについてオンデマンドでの共同学習とオンライン交流を組み合わせたハイブリッドなプログラムや、双方の大学の同じ学年同士が毎年交流をして一緒に成長していくプログラム等を企画し、コロナ禍の2020年度においても、双方で全379名の学生が参加しました。



学問と教育の聖地に聳える 医歯学の殿堂、 東京医科歯科大学

東京医科歯科大学は1928年、官立歯科医学教育機関としてスタートし、日本で唯一の医療系総合大学院大学として、卓越した医療人・研究者の養成に努め、知と癒しの匠を創造することで、人々の健康と社会の福祉に貢献しています。



昇亭北寿の万世橋付近から見たお茶の水方面の風景。本学が位置する場所(右手)には1790年から江戸幕府によって昌平坂学問所が置かれていた。

1890年に建設中のニコライ堂の足場から撮影された湯島地区全景。中央に東京高等師範学校、その左手に東京女子高等師範学校。

1930年頃の東京高等歯科医学校第一附属医院(湯島地区)。



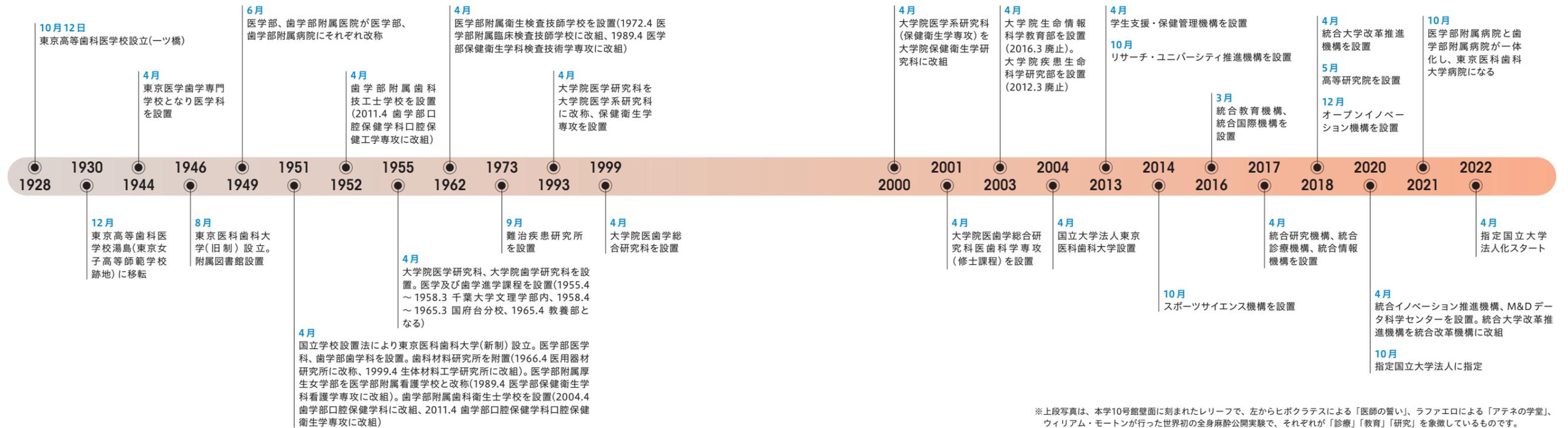
1952年頃、戦後復興期に撮影された本学校舎と湯島地区。



1982年、歯学部附属病院の歯科新棟が竣工。



2009年、東京医科歯科大学医歯学総合研究棟II期棟「M&Dタワー」が完成。



※上段写真は、本学10号館壁面に刻まれたレリーフで、左からヒポクラテスによる「医師の誓い」、ラファエロによる「アテネの学堂」、ウィリアム・モートンが行った世界初の全身麻酔公開実験で、それぞれが「診療」「教育」「研究」を象徴しているものです。

データが示す

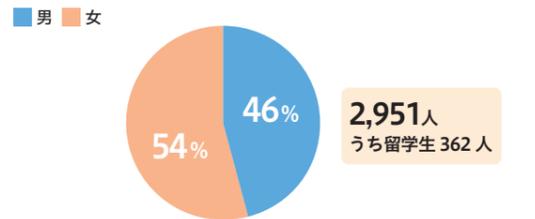
TMDUの「今」

本学は、2021年には世界最高の小規模大学ランキングで日本第1位、世界第24位に選出されました。また論文数、共著論文数も着実に増加しています。医師国家試験、歯科医師国家試験、看護師国家試験等の合格率は、全国平均よりもかなり高いレベルを維持しています。また、学生・教職員の女性比率が高いことも特色の一つです。

- 科学研究費採択件数 713件 (国公立大学：第18位)
- 女性比率 24.5% (採択件数700件以上の国公立大学：第1位)
- 40歳未満比率 38.6% (採択件数700件以上の国公立大学：第1位)

科学研究費 2021年度：日本学術振興会科研費データ

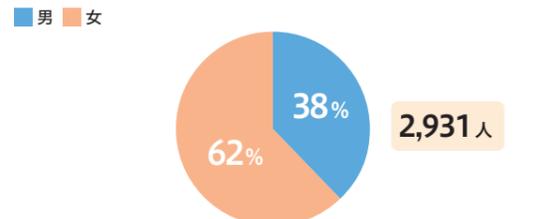
学生数 (2022年5月1日現在)



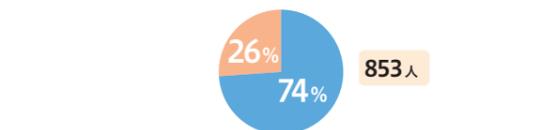
学部生 大学院生



教職員数 (2022年5月1日現在)



教員数



分野別QS世界大学ランキング2022



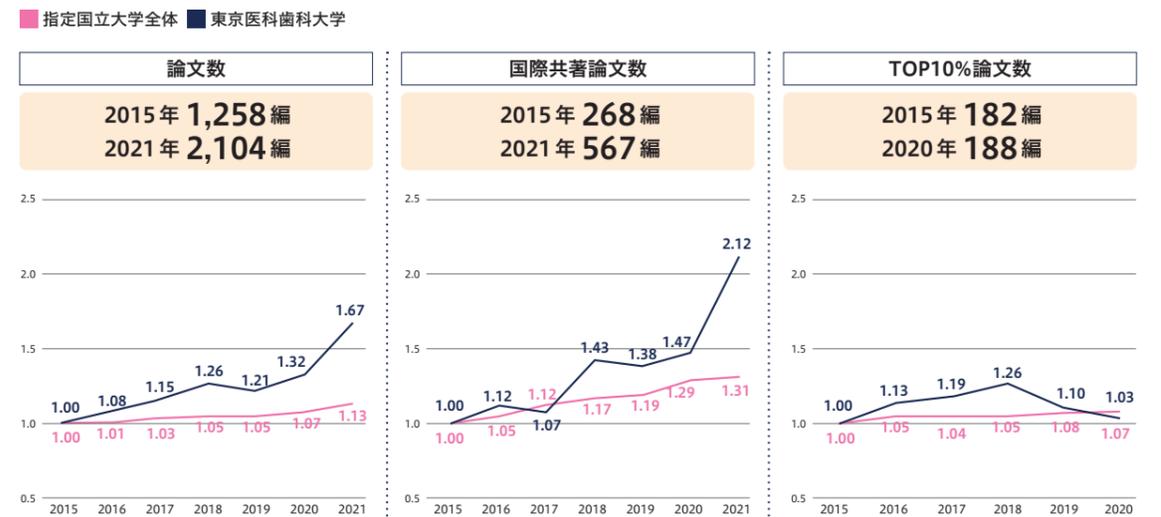
The World's Best Small Universities 2021



THE世界大学ランキング 日本版2022



SCOPUS収録論文数の推移 (対2015年比:本学と指定国立大学全体)

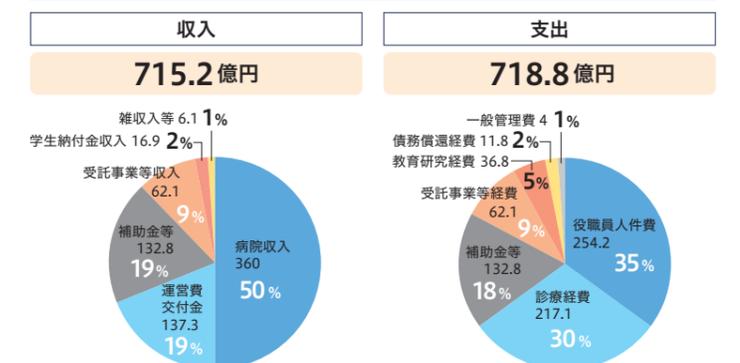


出典：Scival (2022.5.24ダウンロード結果)

国家試験合格率 (2021年度)

	TMDU	全国平均
医師	97.3%	91.7%
歯科医師	79.2%	61.6%
看護師	100%	91.3%
保健師	100%	89.3%
臨床検査技師	93.1%	75.4%
歯科衛生士	100%	95.6%
歯科技工士	100%	94.8%

2021年度収入・支出予算



対話から本質を導く

広く多彩な意見を聞くことで新しい価値を生み出す

「TMDUの今」を正しく理解するために、活躍するフィールドが異なる「時の人」の話に耳を傾け、意見を交わし、そこから見出される新たな価値や目標を発見し、「TMDUの未来」に繋げています。



学長トークの詳しい内容は、左記の大学HPにアクセスしてください。

学長トークダイジェスト

戸部良一先生

(歴史学者／『失敗の本質』共著者)



名著「失敗の本質」から学ぶ

1984年に発行された『失敗の本質』がコロナ禍でベストセラーになっています。『失敗の本質』は、ノモンハン事件以降の6つの代表的な日本軍の敗戦について組織経営論の視点で分析し、後世の政治、経済、社会、組織運営に活かせるように構成された名著です。日本軍の失敗の歴史を礎に、失敗する組織が抱える諸問題を浮き彫りにし、問題解決への道筋と健全な組織であり続けるために必要なことについてまとめています。その執筆者の一人である戸部良一先生に、ご意見を伺いました。

菊澤研宗先生

(慶應義塾大学商学部教授)



組織論からみたコロナ対応のあり方

長引くコロナ禍の中から新たに浮上したコロナ対応の課題について、慶應義塾大学商学部教授・菊澤研宗先生をお招きして、組織論、リーダー論の視点からお話を伺いました。菊澤先生は2021年12月号『公衆衛生』に、「新型コロナ病床確保をめぐる不条理」というテーマで寄稿されており、人口1000人当たりの病床数が世界1位の日本においても、コロナ患者用の病床数が十分確保できないという矛盾について分析されており、今回のトークで菊澤先生の考察を伺い、多くの収穫を得ることができました。

医療におけるナッジ

竹内幹先生 (一橋大学経済学部准教授)

近年、最も注目される「行動経済学」や「ナッジ(行動変容を促すちょっとした仕掛け)理論」を取り入れることで、さらに上質な医療サービスを提供し、健康長寿社会に貢献できないか…というテーマで、竹内幹先生と田中雄二郎学長が対談しました。



スーパーサイエンティストから母校への提言



東京医科歯科大学卒業後から現在まで世界を舞台に活躍する本学出身のスーパーサイエンティストである、一條秀憲先生(東京大学大学院薬学系研究科教授)、中山敬一先生(九州大学生体防御医学研究所教授)、水島昇先生(東京大学大学院医学系研究科教授)と田中雄二郎学長が「母校への提言」というテーマで座談会を行いました。

革新的次世代核酸医薬の開発



核酸医薬は従来の医薬品では治療できない疾病にも有効な治療薬を生み出せることで世界的に開発が進んでいます。そこで本学に所属するこの分野の第一人者である横田隆徳教授、位高啓史教授、藤吉好則特別荣誉教授が田中雄二郎学長を囲んで話し合いました。

女性研究者のキャリアアップ



東京医科歯科大学で学び、女性研究者として活躍する、東北大学・大隅典子副学長、東北大学大学院医学系研究科・中山啓子教授、東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科・隅田由香准教授(キャリアアップ)と、田中雄二郎学長が「女性研究者のキャリアアップ」をテーマに座談会を行いました。

財務諸表の概要と分析 ～貸借対照表(B/S)～

貸借対照表とは、年度末(3月31日)における本学が所有する資産・負債・純資産の一覧表です。本学の財政状態を明らかにしています。

～2020年度における増減要因の主なもの(対2019年度)～

<資産>

当期末の資産合計は約1,641億円となっています。主な増減要因は現預金、未収附属病院収入^{※1}の増加や機能強化棟建築に係る建設仮勘定^{※2}の増加および減価償却の進行による減少です。これらの増減により、前期末比約45億円の増加となっています。

<負債>

当期末の負債合計は約380億円となっており、運営費交付金債務^{※3}、寄附金債務^{※4}の増加や前受受託研究費等^{※5}の増加および新規リース・割賦払い契約に伴う長期未払金の減少、借入金の返済による減少などの増減により、前期末比約10億円の増加となっています。

<純資産>

上記資産と負債の差額が純資産となっており、当期末は前期末比約35億円増加の約1,260億円となっています。

(2020年度B/Sの全体像)

固定資産 1,348億円	負債 380億円
<ul style="list-style-type: none"> ・土地 ・建物 ・工具器具備品等 	<ul style="list-style-type: none"> ・借入金 ・寄附金 ・未払金等
流動資産 292億円	純資産 1,260億円
<ul style="list-style-type: none"> ・現金預金 ・未収附属病院収入 	<ul style="list-style-type: none"> ・政府出資金等

用語解説

- ※1) 未収附属病院収入
附属病院における診療の収入で将来入金される予定のもの
- ※2) 建設仮勘定
建物等の建設費を前払した際に計上するもの。建設が完了したときに適切な有形固定資産の勘定科目に振り替える
- ※3) 運営費交付金債務
国からの交付金である運営費交付金を受け入れた場合に計上される負債
- ※4) 寄附金債務
寄附金を受け入れた場合に計上される負債
- ※5) 前受受託研究費
受託研究費を受け入れた場合に計上される負債

(単位:百万円)

	①2019年度	②2020年度	差引(②-①)	主な増減要因
資産の部				
I 固定資産	136,654	134,840	△1,813	
1 有形固定資産	134,036	132,217	△1,818	
土地	86,804	86,804	0	
建物・構築物	37,003	35,143	△1,860	減価償却及び減損による減
工具器具備品	9,212	8,589	△622	減価償却及び減損による減
その他	1,016	1,679	663	機能強化棟新築による増
2 無形固定資産	291	278	△12	
特許権及び仮勘定	136	152	16	特許権仮勘定の増
その他	154	125	△29	減価償却による減
3 投資その他の資産	2,327	2,344	17	
投資有価証券	2,299	2,302	3	
その他	27	41	14	借上げ宿舍の増加による長期前払費用の増
II 流動資産	22,958	29,296	6,337	
現金及び預金	15,127	20,697	5,570	
未収附属病院収入	6,610	6,989	378	
有価証券	200	200	0	
医薬品及び診療材料	688	753	65	
その他	332	655	323	
資産 計	159,613	164,137	4,524	

負債の部

I 固定負債	18,431	17,647	△783	
資産見返負債	3,398	4,328	930	
長期借入金(機構債務負担含む)	9,547	9,217	△329	長期借入金の減
退職給付引当金	1,084	1,290	206	
その他	4,400	2,810	△1,590	割賦・リース債務の減
II 流動負債	18,603	20,396	1,792	
運営費交付金債務	811	1,069	257	当期受入の増及び繰越額の増
寄附金債務	4,152	4,752	599	当期受入の増及び繰越額の増
前受受託研究費等	1,882	2,315	433	当期受入の増及び繰越額の増
翌年度返済借入金(機構債務負担含む)	1,566	1,113	△452	返済の進行による減
未払金	8,662	9,202	540	
その他	1,528	1,943	414	
負債 計	37,035	38,044	1,009	

純資産の部

I 資本金(政府出資金)	75,590	75,590	0	
II 資本剰余金	6,770	5,195	△1,574	
III 利益剰余金	40,217	45,307	5,089	目的積立金等の増
純資産 計	122,578	126,093	3,514	

(単位未満切り捨てのため、計は必ずしも一致しません。)

財務諸表の概要と分析 ～損益計算書(P/L)～

損益計算書とは、1会計期間(4月1日～翌3月31日)における費用と収益を表示する一覧表です。本学の運営状況を明らかにしています。

2020年度決算のサマリー

<教育研究>

特に国際交流に関してはオンライン化などにより教育研究経費等が減少したものの、寄附金及び産学連携収入等の外部資金は対前年度増加

<附属病院>

新型コロナウイルス感染拡大の影響により附属病院収益は減収したものの、政府や東京都からのコロナ関連補助金等により補助金収益は増収

～2020年度における増減要因の主なもの(対2019年度)～

<経常費用>

当期末の経常費用合計は約603億円となっており、前期末比約6億円の増加となっています。主な減要因は、新型コロナウイルス感染症の影響による国際交流関係を含めた教育研究活動の制限によって教育研究支援経費が前期末比約1億円の減少となった一方、増要因は、新型コロナウイルス感染症対応に伴う診療体制整備により診療経費が前期末比約1億円の増加となったことや、人員数の増加に伴い職員人件費が前期末比約7億円の増加となっています。

<経常収益>

当期末の経常収益合計は約654億円となっており、前期末比約24億円の増加となっております。主な減要因は、新型コロナウイルス感染症対応に伴う診療制限等により附属病院収益が前期末比約65億円の減少となった一方、増要因は、医療提供体制整備に対して政府等から補助金等の交付があったことにより補助金等収益が前期末比約82億円の増加となっています。

<臨時損失>

2020年度は建物の撤去による固定資産除却損を計上したこと等に伴い、臨時損失の合計は約2億円となりました。前期末比約1億円の増加となっています。

<臨時利益>

2020年度は台風被害に伴う保険金の受け入れ等により、臨時利益の合計は約2億円となりました。前期末比約2億円の増加となっています。

<当期総利益>

経常費用が約603億円、経常収益が約654億円となっており、この差額が経常利益約50億円となっています。

この経常利益に臨時損失及び臨時利益を加減算すると当期総利益は約50億円となります。

注) 当期総利益は、会計上発生する現金の裏付けのない利益を含んでおり、現金ベースの収支差を表すものではありません。

本学が経営努力により捻出した現金の裏付けがある利益(「目的積立金^{※1}」)といえます)は約32億円です。

(この金額は、財務諸表の一つである「利益の処分に関する書類」にて確認することができます。以下URLよりご覧いただける財務諸表の6ページに記載しています。)

URL: <https://www.tmd.ac.jp/archive-tmdu/zaimuzaimu/2020zaimushohyou.pdf>

(2020年度PLの全体像)

経常費用 603億円 <ul style="list-style-type: none"> ・教育経費 ・研究経費 ・診療経費等 	経常収益 654億円 <ul style="list-style-type: none"> ・運営費交付金収益 ・附属病院収益 ・学納金等
臨時損失 2億円 <ul style="list-style-type: none"> ・建物除却等 	
当期総利益 50億円 <div style="border: 2px solid red; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 5px;"> うち、目的積立金として文部科学大臣より承認を受けた金額は32億円 </div>	臨時利益 2億円

用語解説

※1) 目的積立金
損益計算書には現金の収入・支出を伴わないものが含まれており、その結果当期総利益には現金の裏付けがない金額が含まれております。当期総利益のうち現金の裏付けがあり、文部科学大臣より経営努力の認定を受けた金額については、「目的積立金」として国立大学法人が翌期以降に繰り越して使用できる財源となります。

財務諸表の概要と分析 ～損益計算書(P/L)～

財務諸表の概要と分析 ～業務実施コスト計算書～

(単位：百万円)

	①2019年度	②2020年度	差引(②-①)	主な増減要因
経常費用				
業務費	58,627	59,357	730	
教育経費	877	846	△ 31	水道光熱費等の節減による減
研究経費	2,328	2,240	△ 87	旅費交通費の減
診療経費	25,429	25,571	141	資産取得による減価償却の増
教育研究支援経費	929	771	△ 158	COVID-19の感染拡大の影響で、教育研究活動が一部制限されたことによる減
受託研究費等	4,173	4,293	120	受託研究課題の増
人件費	24,888	25,634	745	職員数の増
一般管理費	932	919	△ 13	修繕費・業務委託費の減
財務費用	116	79	△ 36	支払利息の減
雑損	15	10	△ 5	
経常費用 計	59,692	60,367	674	
経常収益				
運営費交付金収益	13,820	13,411	△ 409	執行額の減
学生納付金収益	1,422	1,582	160	授業料収入の増
附属病院収益	39,514	32,968	△ 6,546	患者数の減少及び診療制限による減
受託研究収益等	4,177	4,296	119	執行額の増
寄附金収益	1,142	1,153	11	執行額の増
補助金・施設費収益	873	9,138	8,265	COVID-19診療に対する補助金等の増
財務収益	3	3	0	
雑益	1,384	2,167	783	COVID-19対応に係る一時金の受領による増
資産見返負債戻入	632	723	90	
経常収益 計	62,971	65,446	2,474	
臨時損失	155	218	63	
臨時利益	35	228	193	
当期純利益	3,160	5,089	1,929	
目的積立金取崩	0	0	0	
当期総利益	3,160	5,089	1,929	
うち目的積立金	1,378	3,207	1,829	

(単位未満切り捨てのため、計は必ずしも一致しません。)

業務実施コスト計算書とは、本学の業務運営に伴って国民が税金により負担することとなるコストを開示した書類であり、本学の業務を評価する際の判断材料とする為に作成されています。損益計算書を基礎とした上で、損益計算書に反映されない本学の責任外の部分、すなわち国が一義的に責任を持つ部分を加味して作成されています。

～業務実施コスト計算書を構成する主要素～

< 業務費用 >

損益計算書上の費用から、国からの運営費交付金等を除いた自己収入を差し引き、本学単体の業務費用を算出して業務実施コストの基礎とします。

< 損益外減価償却相当額 >

本学の責任外の減価償却費、例えば国が出資した経済的基盤部分に関する減価償却費は、損益計算書には計上せず、費用相当額を「損益外減価償却相当額」として貸借対照表に計上しています。損益計算書の費用とは認識されておりませんが、国民の負担に帰するコストとして認識し業務実施コスト計算書に掲載します。

(単位：百万円)

	①2019年度	②2020年度	差引(②-①)
国立大学法人等業務実施コスト			
I 業務費用	12,238	18,202	5,963
II 損益外減価償却相当額	1,564	1,621	56
III 損益外減損損失相当額	32	83	51
IV 損益外利息費用相当額	6	0	△ 6
V 損益外除売却差額相当額	0	0	0
VI 引当外賞与増加見積額	7	42	35
VII 引当外退職給付増加見積額	△ 198	△ 2	196
VIII 機会費用	4	99	94
IX (控除)国庫納付額	—	—	0
X 業務実施コスト	13,655	20,046	6,390

(単位未満切り捨てのため、計は必ずしも一致しません。)

財務諸表の概要と分析

～キャッシュ・フロー計算書～

キャッシュ・フロー計算書とは、1会計期間（4月1日～翌3月31日）における本学のお金の流れを表す一覧表であり、本学資金の安定性を示します。

<業務活動によるキャッシュ・フロー>

国立大学法人の本業である教育・研究・診療に係る収支を記載します。
本学では約119億円ですので、本業を通じてキャッシュを生み出していると言えます。

<投資活動によるキャッシュ・フロー>

有価証券や固定資産の取得及び売却に係る収支を記載します。
本学では▲約35億円ですので、将来に向けた運営基盤の確立のために積極的に投資活動を行っていると言えます。

<財務活動によるキャッシュ・フロー>

資金の調達及び返済に係る収支を記載します。本学では、大学改革支援・学位授与機構より資金の借入を行っておりますので、その返済もしくは新たな借入額等について、記載しています。
合計額は▲約28億円ですので、借入金等の返済が進んでいると言えます。

～キャッシュ・フローから見る本学の財務状況～

業務活動	投資活動	財務活動	判定	財務状況
+	+	+	△	資金が余っている状況
+	+	-	○	借入金返済を重視している状況
+	-	+	○	獲得資金や借入金で積極的に投資を行っている状況
+	-	-	◎	獲得資金で投資や借入金返済を行っている健全な状況
-	+	+	△	保有資産売却や借入金で資金繰りをつなぐ状況
-	+	-	△	保有資産売却で資金を調達している状況
-	-	+	×	銀行等からの借入金によってまかなわれている状況
-	-	-	×	資金不足の状況

本学においては、本業（教育・研究・診療）で十分なキャッシュ（約119億円）を生み出し、その分で投資（約35億円）を行い、さらに借入金の返済（約28億円）もできていると判定されます。
銀行など金融機関の間では（単年度のキャッシュ・フローに限って言えば）「与信管理上問題なし」と言われる健全な状態です。

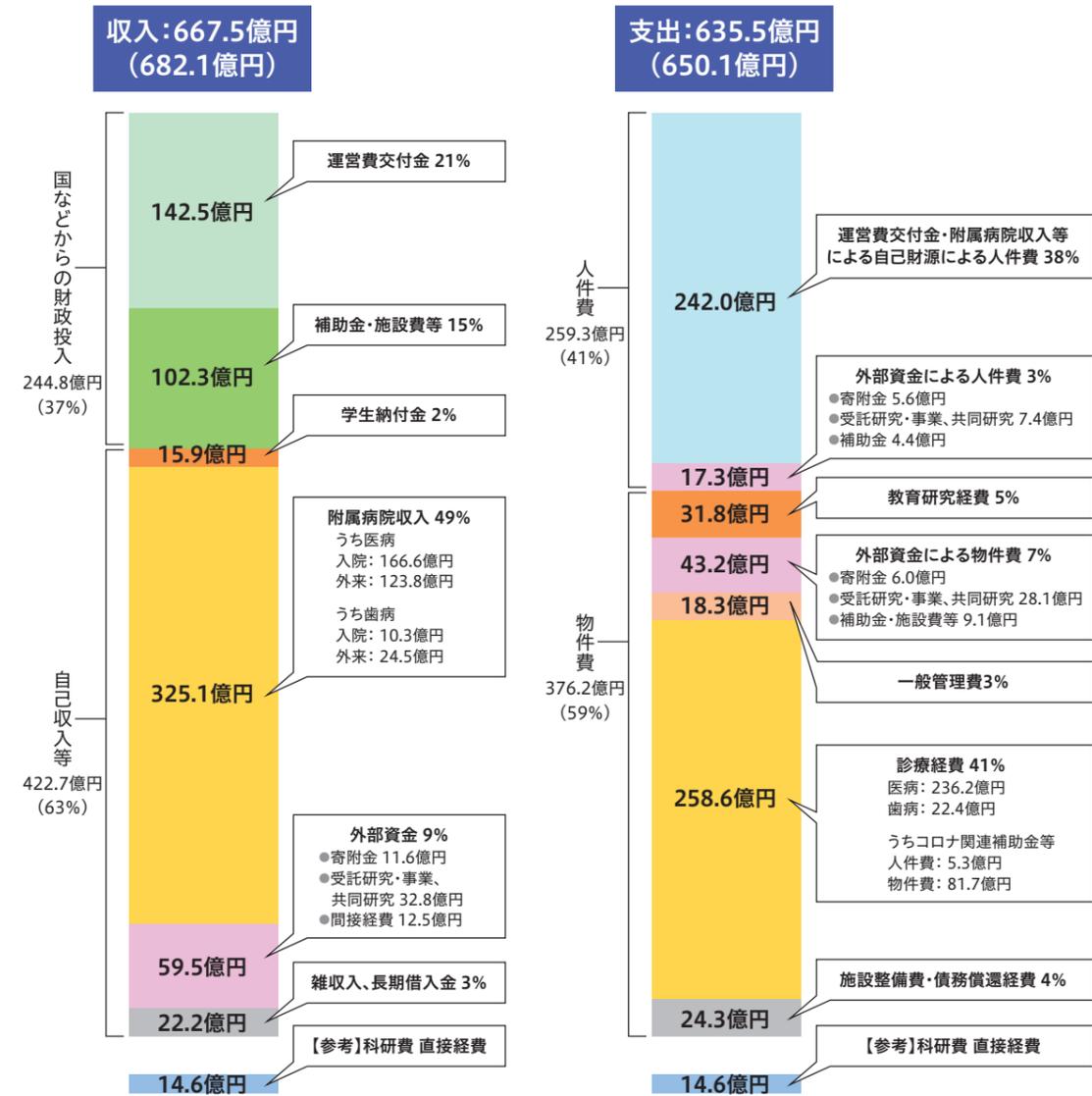
（単位：百万円）

	①2019年度	②2020年度	差引(②-①)
業務活動によるCF			
原材料等購入支出	△ 29,332	△ 27,879	1,453
人件費支出	△ 25,439	△ 25,893	△ 454
その他業務支出	△ 762	△ 667	94
運営費交付金収入	13,530	13,806	276
学生納付金収入	1,619	1,594	△ 25
附属病院収入	39,218	32,518	△ 6,700
受託研究等収入	4,508	4,924	416
補助金等収入	1,120	9,920	8,799
寄附金収入	1,409	1,746	337
その他業務活動増減	1,191	1,905	713
国庫納付金支払額	—	—	0
業務活動CF 計	7,063	11,975	4,912
投資活動によるCF			
有価証券等取得支出	△ 200	△ 203	△ 3
有価証券等売却収入	200	200	0
固定資産取得支出	△ 2,416	△ 3,802	△ 1,386
固定資産売却収入	0	0	0
施設費収入	307	203	△ 104
その他投資活動増減	19	20	0
投資活動CF 計	△ 2,088	△ 3,582	△ 1,494
財務活動によるCF			
長期借入による収入	147	783	636
長期借入金返済支出	△ 117	△ 171	△ 53
リース債務等返済支出	△ 1,060	△ 1,956	△ 895
機構債務負担返済支出	△ 1,826	△ 1,394	431
その他投資活動増減	△ 124	△ 82	42
財務活動CF 計	△ 2,983	△ 2,822	160
資金増減額	1,992	5,570	3,578
資金期首残高	13,135	15,127	1,992
資金期末残高	15,127	20,697	5,570

（単位未満切り捨てのため、計は必ずしも一致しません。）

財務諸表の概要と分析 ~本学の財務構造(2020年度)~

※括弧内は科研費の直接経費を含む総額



※各金額は単位未満を切り捨てているため、計は一致しない場合があります。

2020年度の本学の総収入のうち、附属病院収入は約5割を占めています。
総支出では、人件費支出、診療経費がそれぞれ約4割を占めています。

写真で「知る」東京医科歯科大学

「統合報告書2022」内で使用した写真に関する追加情報をご紹介します。
東京医科歯科大学へのご理解を深めてください。

 <p>ヒト型実験ロボット「まほろ」 実験作業を自動化し、研究者たちが創造性を発揮する時間を紡ぎ出す。浅原研究室(システム発生・再生医学分野)で大活躍している。</p>	 <p>リアルモードスタジオ 歯科治療を迅速・高品質に行うために、3Dプリンター等の最新デジタル機器を活用したインプラント義歯やクラウン(冠状の人工歯)の製作等を行う施設。</p>	 <p>歯学部資料室 江戸後期の木製義歯・橋義歯、喜多川歌麿の浮世絵等、歯科治療の歴史を知る資料、美術品としても貴重な収蔵品を展示。</p>	 <p>都内屈指の大型ヘリポート 東京医科歯科大学病院屋上のヘリポートには24時間着陸可能な夜間照明設備があり、大型ヘリコプター(最大重量11t)も着陸できる。</p>
 <p>知と癒しの庭 お茶の水門側の「知と癒しの庭」。その名は大学の基本理念から引用。大学のシンボル「梅」を模した植栽や四季折々の花を楽しむベンチもある。</p>	 <p>器官形成・疾患モデルとして期待のメダカ 日本が世界に誇るメダカをモデル生物に用いて、仁科研究室(発生再生生物学分野)は、詳細が不明であった肝臓発生の仕組みを解明した。</p>	 <p>鈴木記念講堂前の胸像 本学の礎を築いた島峰徹(右)と長尾優(左)の胸像。心臓バイパス手術の第一人者だった鈴木章夫第9代学長の功績を称えた学内最大規模の鈴木講堂前にある。</p>	 <p>「機能強化棟」(2023年完成予定) 新時代の救急医療と高度先進医療を提供する拠点となる「機能強化棟」が2023年秋に完成予定。お茶の水・湯島に集う人々のオアシスが誕生する。</p>
 <p>ロボット支援下手術 胃、大腸、食道、泌尿器、呼吸器等の外科手術で行われる「ロボット支援下手術」。技術・安全性向上のため、院内技術認定制度を導入して研鑽を重ねる。</p>	 <p>白衣式(医学科新5年生が対象) 臨床実習開始前の共用試験に合格した医学部医学科5年生は「Student Doctor」として認められ、白衣を貸与して病院実習への参加を許可される。</p>	 <p>医学部「保健衛生学科(看護学専攻)」の実習 看護実践能力の高い看護師養成を目標に、体験学習を重視し、専門職にふさわしい感性を磨き、コミュニケーション能力の向上を図る。</p>	 <p>10号館壁面に刻まれたレリーフ 左からヒポクラテス「医師の誓い」、ラファエロ「アテネの学堂」、ウィリアム・モートンの世界初「全身麻酔公開実験」で、診療、教育、研究を象徴。</p>